

◎ 評価対象分野・施策の方針

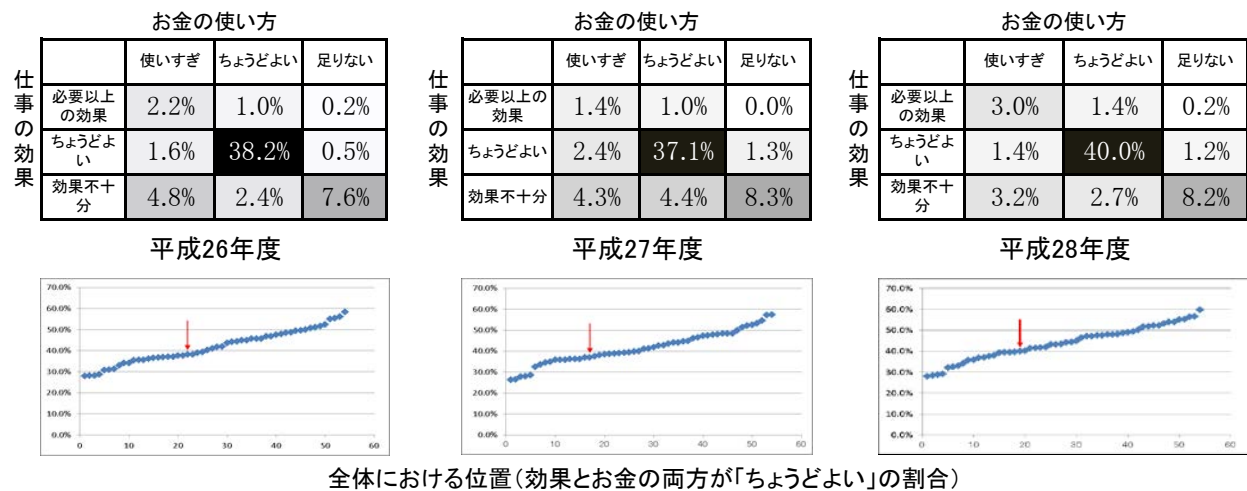
総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	多様な学習機会の提供と学習成果の活用
------------	----	------	-------	--------------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	35.1%	平成27年度	24.9%	平成28年度	34.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

平成28年度の結果では、仕事の効果、お金の使い方ともに、「ちょうどよい」が40.0%と最も高いポイントであるが、他の施策の方針と比較すると決して高く無い数値であり、市の取り組みとその予算に対し、改善の必要性があると分析できる。

平成26～28年度の経年変化においても、傾向に変化は見られないが、効果が不十分の割合が高く、「取組を知らない・わからない」人も30%を超えるなど、より一層市民への情報発信と改善が必要と考える。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	13.9%	40.3%	6.9%	38.9%	100.0%
平成27年度	14.9%	37.9%	7.9%	39.3%	100.0%
平成26年度	13.1%	38.9%	6.9%	41.0%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①鎌倉の伝統文化を体感する事業を開催し、鎌倉の未来を担う子どもたちの成長を援助する。(教育-09)
- ②放課後子ども教室を充実させ、子どもたちの居場所づくりの充実を図る。(教育-10)
- ③生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすい学習環境を提供するとともに、ニーズに合わせた講座の企画・運営を行う。(教育-11)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
教育-09	社会教育運営事業	9,979	6,082	14,545	10,615	0.6	0.6	b	B
教育-10	放課後子ども教室運営事業	1,390	1,463	5,956	5,996	0.6	0.6	a	B
教育-11	生涯学習センター推進事業	15,019	14,972	27,196	27,060	1.6	1.6	a	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①社会教育委員会を開催するとともに、市内在住・在学の小中学生を対象にしたコンサート、鎌倉の伝統文化を体感する事業を開催した。(教育-09)
- ②放課後子ども教室運営委員会を開催するとともに、稲小らんらんスクール及び今小おもしろクラブを実施した。(教育-10)
- ③市民団体である鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して各種講座・イベントの開催や生涯学習情報誌「鎌倉萌」の発行、生涯学習教養セミナー等の生涯学習事業を実施した。(教育-11)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ①ウインターコンサートには239名、かまくらこどもコンサートには526名、合計765名の参加者であった。(教育-09)
- ②放課後子ども教室は、稲村ヶ崎小学校に加え、今泉小学校でも本格実施をした。稲村ヶ崎小学校は、3月15日に全ての教室を終了し、夏休みのみの登録者も含め、96名の登録者があり、年間50回開催し、延べ1,192人の参加した。今泉小学校は、94名の登録者があり、年間42回の実施で、延べ737人の参加した。夏の学習教室には、延べ53名が参加した。(教育-10)
- ③鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して実施している各種講座では、28年度約9,200名の参加者があり、毎年同程度の参加者を維持している。また、その他の生涯学習推進事業を実施し、適切な学習機会の提供に努めている。(教育-11)

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ①写生大会においては、鎌倉地区以外で開催してみたり、コンサートにおいては、企画を工夫をしたりして、より良い活動になるよう努めていく。(教育-09)
- ②放課後子ども教室は、現在行われている2校の内容の充実を図るとともに、放課後子ども総合プランを視野に入れ、青少年課と連携し、事業の拡充を図っていく。(教育-10)
- ③鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び早見芸術学園との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。(教育-11)

4 平成29年度の目標

- ・写生大会を大船地区にある龍宝寺において、開催する。
- ・放課後子ども実施両校において、夏の学習教室を夏休み期間に実施する。
- ・鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び大学等との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-09	事業名	社会教育運営事業					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	3回の主催事業参加者数											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
子どもに対するより多くの学びの機会の提供	目標値	750	750	750	750			H28年度は写生大会が中止のため、2事業の値。				
	実績値	755	995	765								
	達成率	100.7%	132.7%	102.0%								
整理番号	教育-10	事業名	放課後子ども教室運営事業					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	稲村ヶ崎小、今泉小での教室参加児童数											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
プログラムの充実	目標値	1,200	1,800	1,900	1,900							
	実績値	1,763	1,932	1,982								
	達成率	146.9%	107.3%	104.3%								

整理番号	教育-10	事業名	放課後子ども教室運営事業							
指標の内容	放課後子ども教室と子どもの家の一体型に向けた整備					単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
国の放課後子どもプランを推進するため	目標値			0.0	0.0	2.0				
	実績値			0.0						
	達成率									

整理番号	教育-11	事業名	生涯学習センター推進事業							
指標の内容	学習センター利用者数					単位	千人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
生涯学習の振興状況を図るため	目標値	580.0	585.0	590.0	595.0	600.0	600.0			
	実績値	627.0	560.0	535.0						
	達成率	108.1%	95.7%	90.7%						

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・「目標とすべきまちの姿」を実現するには、市民全年代での学習実態（個人趣味による学習等）を優先して調査することが求められる。実態が不明では取るべき手立てが分からない。

・「放課後子ども教室」の位置付けや将来の方向性を再検討することが求められる。

・生涯学習センターの事業内容は委託先市民団体に丸投げになっていないか確認することが求められる。

・実施に関して、目標には幅広い年代とあるにも関わらず、一部の年代しか対象となっていない。「幅広い年代の方々」と謳っているからには真ん中の世代が抜け落ちない企画運営をしない限り目標達成は困難である。

・市民評価委員からの指摘にある「学習成果」の活用とは、学習した人たちが、その知識を活かすことである。また、それらを評価するということは、ただ発表し順位をつけることではないため、適切な事業の執行が求められる。

・様々な事業を実施していることは分かるが、どの様な工夫や改善を行っているのかが読み取れない。

・評価の理由として参加人数を挙げているが、この人数が鎌倉市全体の小学生の数に対してどのくらいの割合なのか？また他の市区町村の同様の取組に対する参加割合と比較してどうなのかが明らかになっていない。

指摘への対応、コメント等

市民全年代の学習実態調査については、今後の検討課題とします。

放課後子ども総合プランにおいて、放課後子ども教室と子どもの家（放課後児童クラブ）の一体型または連携型の施設を平成30年度より市内2校において実施します。今後、拡充の方向で検討してまいります。

委託事業については事業内容、進捗状況について常に確認・助言を行なっています。

幅広い年代へ対応できるようなイベント・講座等の企画に努めてまいります。

指導者登録制度による登録団体が主催する生涯学習教養セミナーは発表が目的ではなく、各登録指導者が講師となり、セミナーを行なっています。また、障害者施設等へのボランティアも行っています。

3回の主催事業に関しては、会場の定員等もあるため、参加・観覧人数が横ばいであることが、事業の評価に繋がっていることと考えています。また、マンネリ化しないように、写生大会でいえば会場を毎年変更したり、コンサートであれば新しい曲や企画をしています。放課後子ども教室では、年度末にアンケートを実施し、次年度のプログラムを作成するなど、より多くの児童が参加しやすい体制づくりを行っています。

生涯学習センターでは、講座参加者へのアンケート調査等を参考として、事業計画への反映を図っています。

写生大会、コンサート共に、親子や家族での参加を促しているため、参加人数の中には小学生や中学生だけでなく、保護者等の数も含まれています。また、湘三管内の他市町では、社会教育担当課（公民館での講座等を除く）において、本市のような子ども対象の社会教育事業を実施されている市町はなく、比較が困難です。

提言

- ・中学、高校、大学等に対する施策にもっと取組を注力すべきである。
- ・多様なコミュニティの形成にどのように寄与しているのか把握する方法を構築すべきである。
- ・それぞれの団体がそれぞれ企画し講座を開催している。連携し年間スケジュールが市民に広報されるとよい。
- ・「居場所づくり」のハード面はこの分野だが、ソフト面は別分野が担当しているのを一本化すべきである。
- ・人員として市の職員だけでは足りない。仕組みを市が作り市民の協力を仰いでいくべきである。
- ・他の小学校にも、放課後子ども教室が加わっていくことが望ましいが、人的資源や予算などの確保に時間、予算がかかることを踏まえた上で施策を展開してほしい。



提言に関するコメント等(総論)

市が主催している講座等は、広報やホームページでお知らせしています。

民間団体が企画されている講座なども、定期的にまとめ冊子等でお知らせしていますが、民間団体の企画は年間スケジュールまで確定されず把握が困難であること、また膨大な量になることから、年間計画として広報することは困難です。

放課後子ども教室では、放課後における子どもの安全で安心な居場所づくりを目指し、地域住民の参画を得て、放課後や週末にさまざまなプログラムを用意して実施しています。今後、青年課と連携し、放課後子ども総合プランの実現に向けて、事業を拡充してまいります。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・稲村ヶ崎小学校に加えて、今泉小学校での放課後子ども教室をスタートさせて、これを充実させ、子どもたちの居場所づくりの充実を図っていること。地域の方が昔遊びを教えたり、地域のつながりが非常にある。さらに深沢、などでも検討が進められていることは評価できる。
- ・鎌倉市生涯学習推進委員会と協働し、各種講座の企画実施を行うとともに、大学等と連携している。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	0	↘	0	→	8	→
効果	○	0	△	4	—	4	△

《課題》

- ・「目標とすべきまちの姿」に掲げられている「その成果が適正に評価され」とあるが、生涯学習の成果をフィードバック、本当にできているかが疑問である。
- ・いずれもアウトプット指標と思われるのため、アウトプットの先にあるアウトカム指標をどうしていくのかが課題である。
- ・市民意識調査「施策の重要度」ランキングでは極めて低位にある。これは「既存利用者のリピート利用」のウエイトが高いことを示唆しているのでは？既存利用者のみならず「広範な市民ニーズ」を発掘する努力と講座内容への反映が課題である。
- ・生涯学習センターの運営が生涯学習推進協議会に委託していることはよいものの、任せきりになっている、内容的な検証や、経年にもなう改善などが不明で、進行管理も必要ではないか。
- ・行政は多様な学習機会の提供を施策目標にかかげているが、鎌倉市民は提供されているものを受動的に学んでいるのではなく、能動的に企画、運営、発信している。生涯学習推進要員制度を含め見直しの必要がある。
- ・昨年度提言からの、改善点・対応策がシートからは見受けられない。例えば現状、対象世代が限られていることなど。また、今後の別分野との連携も青年課との予定を伺わせるのみで、あまり率先して進めている印象がない。

《提言》

- ・平成28年度の目標である「子どもの居場所づくりの充実」はこの事業の「施策の方針」「目標とすべきまちの姿」である学習機会の提供とは別である。居場所の充実ではなく、居場所での学習の充実を目標とすべき。
- ・小学生と高齢者に特化した取組という印象があり、20代の対応はまた別の分野で行われているようなので、その連携が見えるような形にできないか。
- ・委託している「生涯学習推進委員会」への行政の関わり方に問題はないか？行政の積極的な関与・明確な委託業務の提示を求めたい。
- ・「生涯学習センター」については、利用者数のみならず「施設稼働率」の観点から指標の設定が必要である。
- ・「施策の方針」の「主な取組」にある「多様な学習機会の提供と成果の活用」に対する取組が見られない。また「子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が地域での学習に取組」とあるが、取組の対象が非常に偏っている。もう少し全世代のニーズを把握し、広範囲に及ぶ事業を実施すべき。
- ・セクションをまたいだ取組を行うことで、より目標とすべきまちの姿に近づける施策だとは思うのだが、難しいのか。今一度検討してほしい。